



祝！成人おめでとう

1月12日（日）、上山田文化会館において、令和6年度千曲市成人式が開催され、対象者643名中、439名の成人の皆さんが出席しました。

式典では、新成人代表2名が誓いの言葉を述べ、続く「二十歳を祝う会」では思い出のビデオの鑑賞と千曲市PR大使「鬼越トマホーク」の出演により大変盛り上がりました。

上の写真は、最後に鬼越トマホークと実行委員と会場の皆さんで記念撮影をしたものです。

特集 成人式

《主な掲載記事》

特集 成人式…………… 2～5

第29回更埴地区短詩型文学祭
入賞作品・公民館からのお知らせ
…………… 6～7

もっと知りたいふるさと…………… 8
(埴生)

新成人のみなさん
おめでとうございませす

実行委員長あいさつ

屋代地区 北澤 樺咲



本年度、千曲市成人式実行委員長を務めさせていただき北澤樺咲です。

本日はこのように盛大な成人式を開催していただき誠にありがとうございます。私たちが無事に成人式を迎えることができたのは家族や諸先生方、地域の皆様のおかげと心より感謝を申し上げます。

私たちは二十歳という人生の節目を迎えることができました。私たちが就職している人や学業に励んでいる人など進む道は皆それぞれですが、成人として社会の一員となり、自分自身の行動や発言に責任を持つことが大切だと私は思います。

私たちは、これまでの人生で、たくさんの人々に支えられてきました。家族、友人、先生方、そして地域の方々。多くの人々からの温かい励ましや応援があったからこそ今の私たちがいると言えるでしょう。だからこ

卒業生へ
贈る言葉

平成28年度 殖生小学校
6年1組担任 宮崎 正幸

新成人おめでとうございませす。皆さんにはこれから先、可能性に満ちた数十年の人生が広がっており、若さ故の失敗も自分の財産になっていきます。私の未来は皆さんほど長くありませんが、挑戦する気持ちだけは持ち続けていきます。60才を過ぎた今でもフルマラソンで自己ベストを更新できているのは、支えてくれる仲間や家族のおかげです。これからの人生の中で、古くからの友、学校や職場の仲間といった人と縁、出会いを大切にしてください。

平成28年度 殖生小学校
6年2組担任 安藤 花蓮
(旧姓 林田)

新成人の皆様、この日を迎えられたこと、心からお祝い申し上げます。皆さんと過ごした時のことを思い出すと、毎日が新鮮でときどき日々だったと懐かしい気持ちになります。皆さんは、小学校を卒業してから多くのことを経験してさらに大きく成長したのではないかと思います。今日までの経験は、すべて自分のためになる、どんなことも大切な自分の経験です。「虹色の未来」を目指してこれからの人生を歩んでいってください。

平成28年度 殖生小学校
6年3組担任 堀内 朝子

ご成人おめでとうございませす。いよいよ大人の仲間入り、大きな節目ですね。そしてきっと、輝く青春の真っ只中において、瞳をキラキラさせていることでしょう。6年生だった時の皆さんを思い浮かべながら、私までワクワクし、お祝いの気持ちで一杯です。

平成28年度 殖生小学校
6年4組担任 木村 雅樹

ご成人おめでとうございませす。皆さんとの出会いは5年生の時。それまで中学校で教えていた私が、5年生の皆さんに何かにつけて「中学では」と話し、「僕たちは小学生だよ」と返されるやりとりを思い出します。そんな皆さんも成人となったんですね！大切な青春時代をコロナ禍の中で過ごした皆さん。たくさん大変な思いをしたと思いますが、その分たくましく成長したことでしょう。周りの方への優しさや感謝を忘れないうで、これからの人生を輝かせてください！

誓いの言葉

五加地区 谷口 実結



本日、私たちは成人として新たな一歩を踏み出す節目の日を迎えました。この場に立つことができるのは、これまで私たちを支えてくださった多くの方々の存在があったからこそです。

まず、私たちを愛情深く見守り、育ててくれた家族、困ったときに力を貸してくれた友人たち、地域や学校で導いてくださった先生方、そして本日私たちのために素晴らしい式典を催してくださった関係者をはじめとするすべての方々に、心より感謝を申し上げます。

振り返れば、私たちはさまざまな経験を通して多くのことを学び、成長してきました。楽しい思い出ばかりではなく、時には壁にぶつかり、悩み、苦しい日々を過ごしたこともあります。

しかし、その度に支えとなる存在があったことで、立ち止まらな

がらも前に進むことができました。その二つの経験が私たちの強さや優しさを育み、大きく成長させてくれたのだと実感しています。

社会の一員となろうとしている今、私たちが果たすべき役割は、支えられる側から支える側へと変わることです。自分自身の目標を追い求めるだけでなく、社会の一員として責任を持ち、誰かの力になれる存在でありたいと考えます。例えば、地域社会の中で周囲に目を配り、小さな力でも誰かを助ける行動を心掛けていきます。また、自分の将来に向き合い、努力を怠らず、夢や目標に向かって挑戦し続けることを誓います。

私たちはこれから困難な時代を生きていきます。今日の日本社会は、不況が続く、変化も著しく、簡単には解決できない問題が山積みです。それでも、私たちには未来を諦めることなく希望を胸に前に進む力があります。変化の激しい時代だからこそ、多様な価値観を認め合い、互いを尊重する心を大切にしながら、自分らしい道を切り開いていきます。

最後に、今日という日を迎えるまで見守り続けてくださったすべての方々への感謝の気持ちを胸に、二十歳としての自覚と誇りを持ち、精進していくことを誓い、誓いの言葉とさせていただきます。

殖生地区 吉田 哉輝



本日は私たち新成人のために素晴らしい式典を催していただき、誠にありがとうございます。

今日こうして成人式を無事迎えることができたのは、一番近くで支え続けてくれた家族、共に切磋琢磨し合った友人たち、厳しくも優しい言葉を投げかけてくださった先生方、いつも温かく見守ってくださった地域の方々、挙げればきりが無いほどたくさんの方々の支えによるものであることを、新成人を代表してお礼を申し上げます。

気づけば、もう「二十歳」という人生の節目を迎え「大人になつたぞ」という期待を持つとともに、時の流れはあっという間に過ぎてしまふという焦燥感に駆られていく人もいると思います。

そのような中、私たちは現在、勉学に励んでいる人、仕事に勤しんでいる人、自分の夢の実現のために日々努力をしている人、中には自分の将来がまだ定まらず悩んでいる人もいます。私自

身もつらい時やくじけそうな時がありました。これらを乗り越えることができたのは周りの人々の存在でした。その温かい存在に支えられ、守られ、ここまで大きく成長することができたと感じています。

私は現在、学校の教員を目指しており、県内の大学に通いながら日々勉学に励んでいます。そして、来年には教育実習が始まり、実際の学校現場で先生として授業をする機会がやってきます。教員は、これからの社会を築いていく芽を育てていく非常に大切な職業の一つです。私が今まで受けてきた温かい支援を、教員という職業を通してお世話になった方々に少しでも恩返しをしていきたいと考えています。

最後になりますが、私たちは大人の仲間入りをいたしました。大人になるということは行動の選択肢が増えると同時に、何をやるにも「責任」がついてきます。その責任に押しつぶされることなく、これからも私たちは、私たちらしく前を向き、挑戦し続けていきます。どうかその姿を今までのように温かい目でご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。誓いの言葉とさせていただきます。

新成人おめでとう

殖生小学校元PTA会長
保護者代表 武田 昌昭

新成人の皆さん、この日を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、これまで心温かく見守ってこられたご家族の皆様、地域の皆様、保護者を代表いたしましてお礼申し上げます。皆さんは小学校を卒業して中学・高校と進学してきました。高校では新型コロナウイルス禍に遭遇し体調が崩されたり満足な高校生活が送れなかったと思います。こうして「二十歳」を迎えられたことを本当に嬉しく思います。

現行法令においてすでに「成人」となっておりませんが、これからは色々と遭遇し、様々な悩みを抱えると思います。その時は一人で解決せず、ご両親や親戚の方々、さらに先輩や上司の方々などに相談してください。相談することは恥ずかしいことではありません。きっと親身になって受け入れてくれるはずですよ。



新成人の皆さんに
贈る言葉

新成人の皆さんへ

殖生公民館長 長島 克彦

新成人の皆さん、成人の日を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

今日の輝かしい晴れ姿にご両親のお喜びもひとしおのことでしょう。大切に育てられたご両親へのご恩を胸に、成人としてますます成長されまことを願っています。

自分を取り巻く方々への感謝の気持ちは心に思うだけでなく、相手に向き合い、しっかりと言葉に表し気持ちを伝えてください。

なお成人の日は言うまでもなく国民の祝日であり「おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日」と定義されています。

私の好きなある時代劇の主題歌に「刀人生楽ありや苦もあるさ、涙の後は虹も出る泣くのが嫌ならさあ歩け刀」とあります。やらずに後悔するよりもたとえ一歩でも前に歩いてください。きっと素晴らしい虹がでると思います。「己を拓こう、肩あげて」大きな希望を見上げ、自らの力で未来を開きましょう。終わりに、皆さんの洋々たる前途を祝い、幸多からんことを心からお祈りいたしました。お祝いの言葉とさせていただきます。



しおりの表紙
題字は唐澤美優さん書
(戸倉小)

祝成人 桜梅桃李



「二十歳を祝う会」司会の2人です



受付も実行委員のお仕事です



仲間と一緒に華やかですね!



千曲市PR大使 鬼越トマホークと一緒に!



ビシッと決まっています!



亡き友の遺影とともに



フォトブースの作成がんばりました!

実行委員長	北澤 樺咲(屋代小)
副実行委員長	岡本 恵太(戸倉小)
式典司会	中澤 佑香(屋代小)
式典副司会	眞弓田 涼介(東小)
二十歳を祝う会	宮澤 佑月(東小)
二十歳を祝う会	大月 晟年(治田小)
しおり委員長	竹内 優吾(植生小)
しおり副委員長	山本 桃葉(戸倉小)
誓いの言葉	永田 紗希(八幡小)
誓いの言葉	谷口 実結(五加小)
誓いの言葉	吉田 哉輝(植生小)
誓いの言葉	島田 美羽(治田小)
誓いの言葉	北村 優芽(八幡小)
誓いの言葉	堀口 恵生(更級小)
誓いの言葉	松林 百夏(五加小)
誓いの言葉	林 花純(上山田小)
誓いの言葉	宮原 愛実(上山田小)

成人式実行委員

【おうばいとうり】

桜・梅・桃・李(すもも)がそれぞれ美しい花を咲かせるように人と比べることなく自分の良さを大切に“自分らしく生きる”



式典



式典の司会の2人です



実行委員長あいさつ



厳粛な雰囲気の式典会場



誓いの言葉



仲良し3人組でハイチーズ!



晴れやかに友達と記念撮影



実行委員作成のフォトブースをバックにパチリ!



我が子の出待ち中の保護者の皆様

第二十九回 更埴地区短詩型文学祭入賞作品

更埴公民館運営協議会主催の第二十九回更埴地区短詩型文学祭の表彰式が、11月23日(土)に八幡公民館で開催されました。

一般の部、小学生の部、中・高校生の部で3,054点の応募作品が集まりました。

次に千曲市関係の入賞作品を紹介いたします。

なお、作品集は各公民館にありますのでご覧ください。

一般の部

短歌

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

稲荷山公民館 柳澤 隆
病床の声出ぬ母は手を取りて「あ」の文字書き静かに逝きぬ

選評
死に近き母はもう声も出なくなっている。作者の手を取って掌に指で「あ」と書いて静かに息を引き取られた。母は最後の力を振りしぼって「ありがと」と伝えてくれた。胸に迫る秀歌となった。

佳作

稲荷山公民館 宮本 律子
長靴の軽くて丈夫を二人分購いて来しじやがいも植える
稲荷山公民館 関 津和子
たましいが娘とみどりごに会にゆく母とはすでに悲しき器

俳句

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

上山田公民館 吉田 とし子
キコキコとペダルこぐ児や麦の秋

現代詩

◆奨励賞

屋代小学校6年 小林 歩登
セミの声

セミの声 夏のふん囲気出ているな
セミの声 聞いてて心が落ちつくな
セミの声 真夏のかげろつとよく似合う
セミの声 どんどん小さくなってくる
セミの声 どんどんどん
セミの声 次聞く時は次の夏

選評
聞こえるセミの声が少しずつ変わっていくことでわずかな時間の流れをうまく表しました。「かかげろつとよく似合う」「小さくなって」「どんどん」を素直に表現し、優れた詩にしました。

蝉

東小学校6年 白澤 慶周
夏のある季 蝉は出る
暗い土から 暗い夜へとい出る
そして木へと登り 古い自分をぬいで飛びたつ
そのぬけがらは 蝉のこれまでを語っている
真夏には音が聞こえる 数週間しか聞かない音楽が
新たな命ができるころ 彼の命は落ちてしまう
次を継いでくれる事を信じて

選評
麦の秋とは初夏のころ麦が黄ばり色に熟すことを秋に見立て夏の季語となりました。そこにオノマトペ(擬音語)を使い、自転車をこぐ児の動作が生きて取り合わせのよい作品となりました。

◆更埴公民館運営協議会長賞

屋代公民館 西村 久恵
もてなは野菜づくしや団扇風

選評
こんな普通の生活の中にも一句が生まれるという一例です。季語の団扇風がぐつと情景を広げてくれました。

佳作

屋代公民館 尾和 有美子
大声は父の血筋や神輿昇く
屋代公民館 多羅沢 美恵子
夏休み昆虫図鑑動き出す
屋代公民館 宮原 恵美子
青葉風山のパン屋のテラス席
戸倉公民館 田島 健
源氏絵に衣擦れの音夜の秋

中・高校生の部

◆奨励賞

更埴西中学校2年 市村 磨裕
慎重になった最後の一画がミステリアスな悲しい行書

選評
慎重に書き進んできて最後の一画でミスってしまい「あゝあ」というため息がきこえるようです。また「悲しい行書」という表現に作者の複雑な感情も想像することができて共感する人も多いことでしょう。

俳句

◆奨励賞

戸倉上山田中学校3年 坂口 奈緒
待ち侘びた新刊本が手に届きました。さあ、それを開くときが「春の夜」です。春の夜とは、雛の掛かた夜で花の匂いに包まれています。ゆったりとした中で読書の世界が広がっていきます。

川柳

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

屋代公民館 若佐 亜紀子
始発駅夢も一緒に買って来る

選評
「始発駅、これは人生の始まりであり何事もここから始まる。作者のここに込められた思い、最後の下五が生きています。買って来るではなく買って来るに作者のうまさが出て今回群を抜いている佳句。

佳作

屋代公民館 高野 節子
種蒔きの土の温もり肌に染み
稲荷山公民館 中山 博雅
きつかけはさもない言葉のくいちがい



受賞者の皆さん

川柳

◆奨励賞

更埴西中学校1年 井浦 花菜
鉛筆に力が入った初テスト

選評
初めてのテスト、誰でも緊張するものですが、鉛筆に力が入ったと、その緊張感を素直に表現しています。その緊張感が伝わって来るような佳句です。

現代詩

◆奨励賞

屋代中学校1年 佐藤 賢汰
綿毛

羊の毛のような綿毛
春の風が吹き敷く中で
旅立っていく
木々や川を乗り越えて
たくさん命が増えていく

選評
タンポポの冠毛を綿毛という適切な言葉で表しました。あまり気付かない所へ目がゆき「旅立って」「乗り越えて」「命が増えていく」等々上手い表現で素晴らしい詩になりました。



短歌
殖生公民館 青木 棚田
うれしいね孫に抜かれた背の高さ
殖生公民館 朝日 光彦
譲られた優先席の温かさ
戸倉公民館 中村 幸子
ありがとう言って言われて円く生き

小学生の部

短歌

◆奨励賞

屋代小学校6年 中山 壮真
帰り道いつも同じはずなのに季節変わればもうべつこの道

選評
作者は通学の道での観察を詠いました。それは小さいけれど大きな発見です。そしてすなわち一首を作るつもりで生かされています。定型におさまった良い一首です。

選評
作者は学校で米づくりを体験しました。2句目の「一粒一粒いねい」という表現が大変良い。そして結句の「重さ感じる」が、働く喜び、収穫の有難さという具体を感じさせて、立派な一首です。

俳句

◆奨励賞

屋代小学校5年 宮崎 美怜
忘れない山とキャンプと火の匂い

選評
「忘れない」とまず自分のいちばん言いたいことを打ち出したところが素晴らしいです。普通の語順と逆にすることで思いをはっきり伝えることができている。「山とキャンプと火の匂い」という五感を総動員して刻まれた記憶。いつかどこかで火の匂いを嗅いだ時、「あ、あの時のキャンプの匂いだ」と鮮やかに思い出せることができると思います。

川柳

◆奨励賞

八幡小学校4年 青木 愛奈
オリンピックかれない着地金メダル

選評
体操の「コマだ」といいます。最後まで諦めず日本の団体は金メダルを取りましたがあの着地の瞬間を「かれない着地」と詠んでいます。誰でも拍手をしたくなるような一句、秀句です。



公民館学習活動実績発表会

屋代公民館	稲荷山公民館	八幡公民館	戸倉公民館
サークル発表会 舞台発表 3月8日(土) 午前9時30分~ 屋代公民館 講堂	展示発表 2月3日(月)~2月8日(土) 午前9時~午後5時 最終日のみ~午後1時 稲荷山公民館	展示発表 2月26日(水)~3月1日(日) 午前9時~午後5時 最終日のみ~午後12時30分 八幡公民館	展示発表 3月1日(土) 午後1時~午後5時 3月2日(日) 午前9時~午後3時 戸倉創造館
	舞台発表 2月8日(土) 午前9時40分~午後1時 稲荷山公民館 講堂	舞台発表 3月1日(日) 午前10時~11時30分 八幡公民館 講堂	舞台発表 3月2日(日) 午後1時~午後3時 戸倉創造館 大ホール

◆公民館からのお知らせ◆
 屋代、殖生、稲荷山、八幡公民館の使用料の減免申請について
 令和7年度の公民館使用料の減免申請を2月10日(月)から3月7日(金)まで受け付けます。詳細については各公民館にお問い合わせください。
 ※規定により減免の対象にならない場合があります。

第二十九回 更埴地区短詩型文学祭 一選者

短歌の部	俳句の部	川柳の部	現代詩の部
松林のり子 日誌 百合子 米澤 光人 青木 美子 大井 さち子 本山 流水 近藤 鉄夫 青山 正雄 小宮山 澄 柳澤 光	青木 美子 大井 さち子 本山 流水 近藤 鉄夫 青山 正雄	柳澤 光	柳澤 光



審査員の先生方

もっと知りたいふるさと

102

東山神社

※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

しなの鉄道屋代駅の東側、有明山の山腹に、小島区の鎮守「東山神社」があります。

近隣に見る神社の多くは、平地に建てられています。東山神社が山中に建てられた思いを考えつつ、参道を登るのも面白いものです。

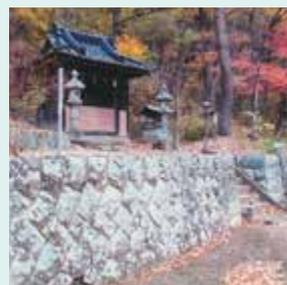
神社からの眺望は、眼下に殖生の町並みが見られ、遠くには重伝建の蔵の町稲荷山や日本遺産の八幡の町が見渡せます。

東山神社の参道の石積みや神が鎮座する社殿の石垣は美しく、石工の技術を堪能することができます。

また、境内には本殿のほか養蚕社、秋葉社、事代社、天満宮、道祖神が鎮座しています。何よりも、神社と古墳が同じ敷地内にあることが珍しいと思います。



神社本殿



養蚕社

【高台の神社】今は、社を高台に築いた思いを知る術もありませんが、小島の成立ちを考えれば、うなずけるものがあります。

この地は、千曲川氾濫に悩まされた地であり、現小島の大半は水没する地形であったようで、水没しないわずかな地に、人が住み始めたと言われています。

慶長7(1602)年、徳川の「川中島四郡検地打立之帳」に、「尾島村」として村名が初見されていますが、極小の村に治水の力はなく、水害は度々あったと考えられます。

特に、寛保2(1742)年8月1日発生の洪水「戌の満水」は、今も語られます。水害に苦しむ村人は、神を迎える場所として、水から守れる高所を選択するのは当然のことでしょう。

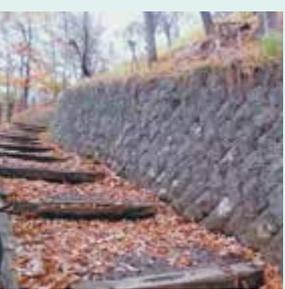
村名が初見されてから約200年後、文政3(1820)年に神社が建立され、「健御名方命・事代主命」を祭神とし、「諏訪社」が生まれました。

このころの村規模は、40軒余り・人口約180人と推測されます。

【社名の改称】明治13(1880)年、官許を得て「諏訪社」から「東山神社」へと改称をしています。「有明山」ではなく、なぜ「東山」と名付けたのか不思議に思いましたが、小字名から名付けたと考えられます。

【社殿の改築】大正14(1925)年、現社殿に改築され様相を一新したと言われています。

【古墳の発見】昭和4(1929)年、鳥居改修の折に見えられ、調査を経て「東山神社古墳」として登録されています。古墳は削平されており、規模は不明ですが、長さ3.6m、幅



参道の美しい石積み



古墳をしのぶ石碑

0.7mの石棺、人骨、直刀3振と鉄製の矢じり数十本が出土しています。古墳は7世紀ごろの築造だと記録されています。

【東山神社は歴史探訪の分岐点】この神社の直下には、大永2(1522)年に屋代氏開祖の「満照寺」があり、神社から北方面に屋代氏居城跡の一重山や森將軍塚古墳への道が延び、右手からは、有明山將軍塚古墳への登山道が延びています。

有明山將軍塚古墳は、有明

編集後記

館報編集委員として、成人式当日のカメラ取材をし、式の参観を得る機会に恵まれた。式場入口付近では、新成人の皆さんが深刺した笑顔でカメラに収まり、懐かしい思い出話に花を咲かせていた。

式典での男女代表の「誓いの言葉」や「二十歳を祝う会」での実行委員長のあいさつに、新成人としての決意や未来を見つめる真摯な姿に胸打たれ



東山神社周辺図

山北西尾根の標高約560m付近にあり、全長38mの前方後円墳です。歴史を紐解きながら、里山めぐりをするには最適といえます。

参考文献 小島 高橋 義廣 『更級埴科地方誌』 『更埴市史』 『千曲市を護る神々』

市河俊和 著

た。

実行委員の皆さんも、丁寧に司会進行などの役を務め、和やかなうちに式の幕を閉じた。普段は県内外で就労や学業に勤しんでいる若者が成人式に集い、「ふるさと千曲市」で育まれた20年間を共有できたのではないかと思った。

成人式で、郷土に誇りを持ち、未来を信じて進む若者たちの姿に、持続可能な千曲市を見た思いがした。

(八幡 M)